

AMDA ミャンマー難民救援保健医療プロジェクト  
第2次医師団報告

【参加者】

長谷川昭一 (AMDA ミャンマー難民救援プロジェクト副委員長)  
山本 秀樹 (AMDA 事務局長)

【全体の状況】

バングラデシュはこの時期は雨期なのでサイクロンによる洪水や、伝染病の流行を予想していたが、今年は雨が降らずに乾燥した天気が続いていて、幸いなことにキャンプ内では大規模な伝染病の流行は起こっていない。

ミャンマー政府とバングラデシュ政府との帰還に関する話し合いも結論が出ずにいて各援助団体も模様眺めと入ったところである。バングラデシュ政府の大臣、国会議員団もコックスバザール入りしてNGOの代表を集めて現地の状況をNGOから聞き取る会合も行なわれ、NGOに対してキャンプ内での継続的な支援活動と帰還への協力を要請する場面もあった。

このような状況の中で、われわれAMDAの活動は、第1次医師団らの立案した計画のとプロジェクトコーディネーターの S.A.Razzak 氏 (Dr. S.A. Nayeem の弟) らの現地スタッフの手で着実に行われていた。

【業務の進行状況】

1. 現地 (コックスバザール) のAMDAオフィス、スタッフの現状

コックスバザールの市内にAMDA現地事務所を開設し、現地でAMDAバングラデシュの Dr. Soumitra Barua にフルタイムで勤務してもらい、コーディネーターに加えて、ヘルスワーカーも2人ほど新たに雇用し合計5人が常時AMDAのスタッフとして働き、ローテーションでチッタゴンのAMDAバングラデシュの医師が参加することとなった。そして、われわれ日本人医師が協力する体制が確立できた。したがって、駆虫プログラムに加えて、衛生教育プログラムも行なうことが可能となった。

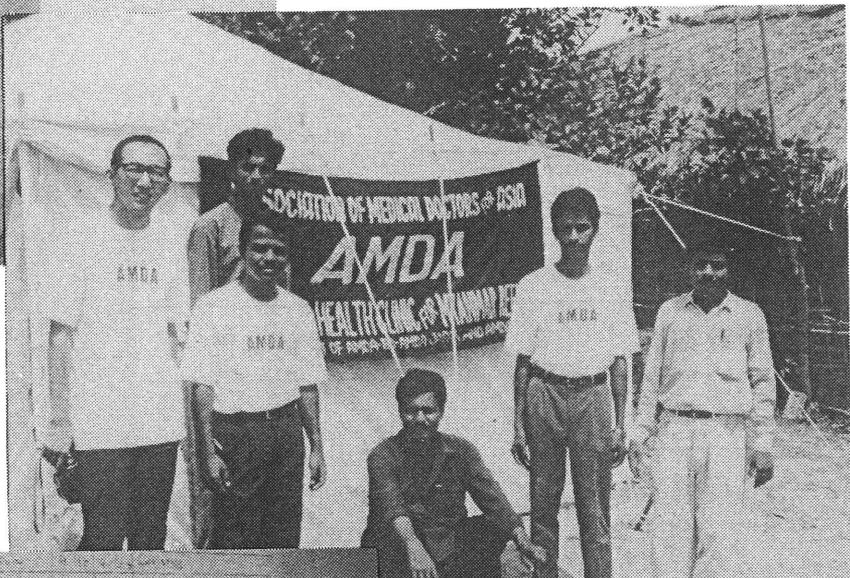
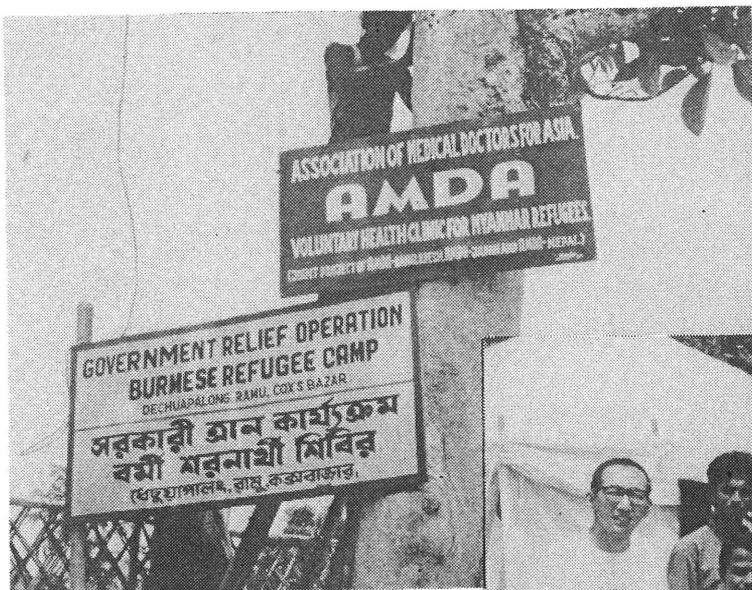
2. 駆虫プログラムについて

第1次医師団が4月25日より開始したDhoapalongキャンプにおける駆虫プログラムを完了。5367人の子供 (6カ月以上12才以下, 男児:2794人, 女児:2573人) にたいして駆虫薬 (evamisole 2.5mg/kg) を投与をおこなった。駆虫薬投与後、寄生虫の排出の有無について問診を行なったところ56%の子供に排出が確かめられた。また、駆虫薬による副作用は認められなかった。

一つのキャンプでの仕事が終了する毎に、relief commissioner, district commissioner, UNHCR に報告して新たに許可を取る必要があるので、各機関に報告と提言をおこなった。各機関とも、日本からの団体が来てバングラデシュ人の医師とともに活動を行なっていることを歓迎し、駆虫という地味ではあるが大切な仕事であるとわれわれの仕事を評価してしてくれた。また、今後の活動に対して助言と協力を約束してくれた。

Dhoapalongキャンプが終了した後続いて第2のキャンプであるDechuapalong-1キャンプへと移動することとなった。ここでは、駆虫を行なうだけでなく、投与前にユニセフの教材やAMDA独自の教材を用いて衛生教育を行ない、その前後で衛生知識に関する質問表を用意して教育の効果判定も行なうこととした。

Dechuapalongキャンプにてプロジェクト開始



Dechuapalongキャンプの仮診療所開設



UNHCR現地オフィス  
(左よりDr. 山本、UNHCRヘルス  
コーディネーターMs. パトリシア、  
フィールドオフィサーMs. 橋本、  
AMDA、Mr. ラザック)

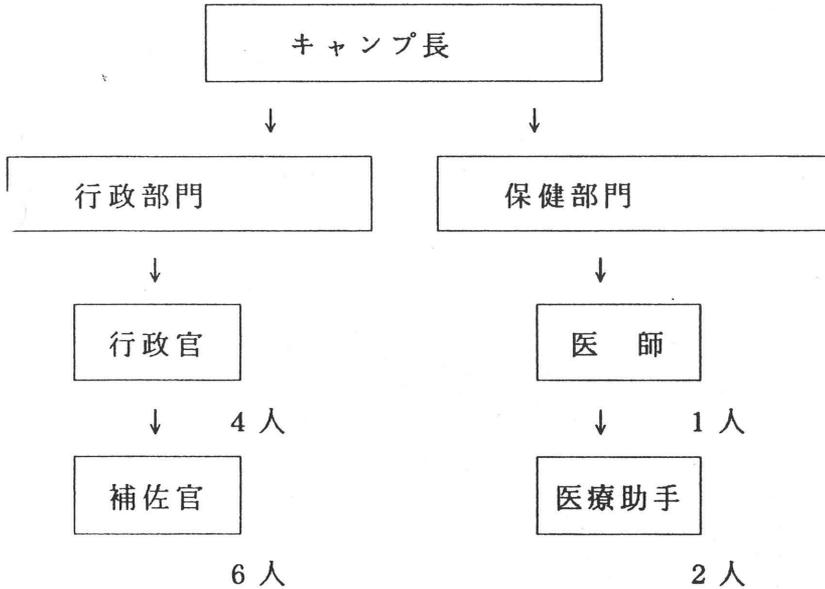
キャンプの中の家の中



第二のキャンプDechuapalong-1 キャンプの概要  
(92年5月末現在)

設立時期：92年1月、行政区場所：Cox's Bazar 県  
総人口：4983人（男：2454人，女：2529人）  
5歳以下の幼児人口：1133人、6-12才の児童人口：1285人  
世帯数：1084世帯，98棟、面積：30エーカー  
井戸：25（199人の一つ），公衆トイレ：115（43人の一つ！）  
医療機関：政府の診療所が一つ（92年1月より診療，平均外来患者数130人/日）

Dechuapalong-1 キャンプの行政区分

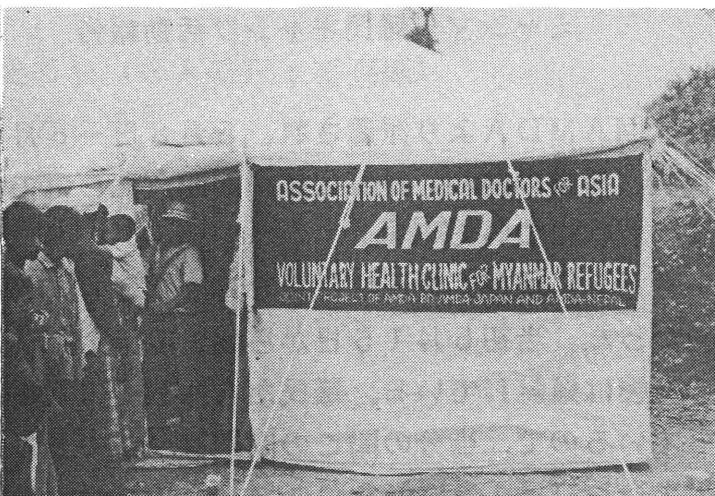
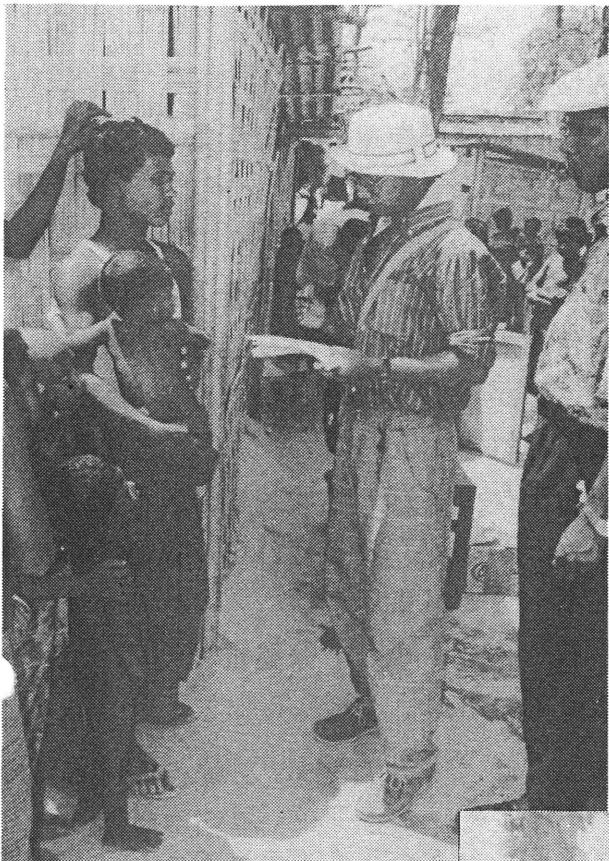


協力NGOs

MSF（国境無き医師団，フランス本部）  
AL-IBLAMIN Foundation（イスラム教のNGO）  
CARE

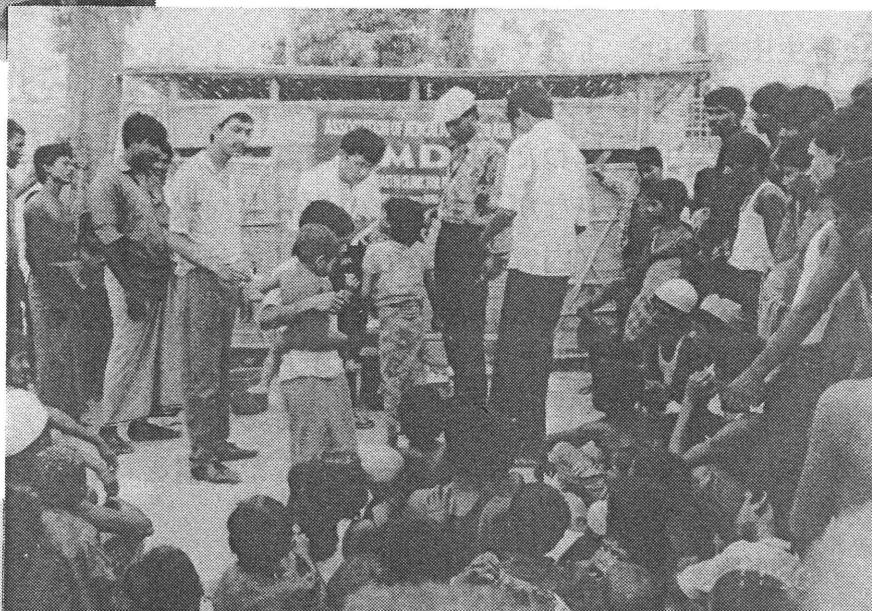
このキャンプは，16カ所の難民キャンプの中でも早期に設立され，コックスバザールにも近く人口も小規模でありキャンプの運営も他のキャンプと比較的するとうまくいっている方である。

キャンプ長からの許可が降りるとさっそくキャンプ内にAMDAの出張オフィスの出張所を建設し、このキャンプ内での活動の基盤をつくった。



Dhwa Palong 難民キャンプにはられたAMDA  
のテント。ここがプロジェクトの拠点となる。

難民を個別に訪問。主に子供  
達の健康状態を調査する。  
(Mr. Razzak)



子供達に駆虫剤を与える野田  
医師。飲むのを確認すること  
も重要だ。

活動を開始すると子供達がどんどん集まって  
きて列をつくる。